

# 令和元年度（平成 31 年）事業報告書

## 事業実施の報告

定款「第 3 条の目的」と「第 5 条の事業」及び昨年度の第 10 回総会で承認された令和元年度事業計画に基づいて事業を推進してまいりましたのでその内容を報告いたします。

### 1 個別事業の報告

#### （1）学校等教育施設の建設事業

##### 建設地の現況

**建設場所** フィリピン共和国ブラカン州パンディー地区カカロン・バタ小学校敷地内  
(Pandi Pio De Pandi Cacarong Bata Pandi Bulacan)

**児童数** 1,402 名 男子 763 名 女子 639 名

**教室数** 3 階建て 15 室 1 棟、平屋建て 1 教室 1 棟 合計 16 室、  
そのうちの 1 室は校長室兼応接室、1 室は職員室、1 室は食堂として使用。  
13 室をプレスクール（3 室）、1 年生～6 年生（24 室）合計 27 室。

**授業形態** 午前の部（7:00 から 12:00）  
(2 部授業) 午後の部（13:00 から 16:00）

**児童数増加への対応** この学校は 2017 年に開校した 3 年目の学校である。

さらに 5,000 棟を建設してマニラ近郊から移住者を増やす計画があると聞いている。

目下、学校では移住してくる人たちの受け入れ準備が進められている。現在使用中の 3 階建て教室と同規模の教室建設が校内空き地で進められている。

いまでも移住者があり、多い時には月間 200 名ほど学童が増加しているそうである。

増設中の教室が完成しても移住者の増加が見込まれ、2 部授業の解消はおろか、益々教室不足は深刻化すると校長は話していた。RASA に対して、校長は建設した教室の 2 階建て化を強く期待しているとの言葉を度々耳にした。

##### RASA 建設物件の主な仕様

建物の規模・・・平屋建て 3 教室（将来の 2 階建て増設を見越した柱、梁の強度の構造）

各教室に男女共用のトイレを併設、1 室の広さ：学童 70 名収容可能。

竣工予定日・・・令和 2 年 4 月末日（6 月からの新年度に間に合わせる）

竣工式・・・5 月下旬（予定）

##### 建設地の背景

2018 年 2 月と 2019 年 2 月に建設した「パンディーレジデンス I 小学校」および「パンディーサン・アントニオ小学校」の北東部約 60 キロに位置する田園地帯。

今年の活動地は 2017 年に開校し 3 年目を迎えたカカロン・バタ小学校。

生徒総数は約 1,400 名

3階建て1棟15室を保有する小学校。この学校も前2校同様にマニラ近郊に住む住宅困窮者のために、政府が田園地帯に一軒当たり約15坪ほどの10軒連棟式住宅を建設、廉価で販売して移住させている。

この地区だけでも15,000軒ほどの長屋式住居が建設され住民はここに移住した。

しかし移住地には仕事がない。多くの人たちは約2時間以上もかけてマニラまで通うこともできない。生活を維持するために単身マニラで働いている。週末になると家族の元へ帰宅するという生活を余儀なくされている。

## (2) 栄養障害児救済事業

### 活動地

#### ラグナ州カブヤオ市サウスビルI小学校

#### 活動地の背景

2011年夏、RASAはこの小学校で学校建設活動を行った。その時、当時のPTA会長から栄養失調児救済のため給食活動を依頼され当時の理事長シーランド神父は即座にOKした。

マニラやその近郊都市には、離れ島や田舎から豊かな生活を夢見て、当てもないのに出てきた人達が他人の土地に無断で住み着いたり、少しの空き地があれば鉄道線路わきであろうがバラックの家を建ててスラムを形成していった。電車(実際はディーゼル車)はスピードを上げて走るとその風圧でバラックの家が壊れるので、警笛を鳴らしながらノロノロと優しく走っていた。私が駐在していた1995年当時の様子である。彼らの生活レベルの低さから、住居は目を覆いたくなるほど悲惨であった。

1998年マニラでフィリピン初のAPEX会議開催が決まり、都市の美化活動推進が展開され当時のラモス大統領はラグナ州カブヤオ市に約50,000戸の小さな家を建設し、半ば強制的に彼らを移住させた。

その移住先がサウスビルでありそこに作られた学校が、サウスビルI(第一)小学校である。

2011年当時のサウスビルI小学校は

- ・全校生徒数：約6,000名
- ・栄養失調児数：約2,500名(家庭が貧しいために1日1食の食事にも満足に食べていないのが原因)

#### 2015年から小学校内に移転

使用中の給食場所は持ち主から2か月後の明け渡し要求があった。

「学校近くで調理場スペース確保ができ、多くの学童が同時に食事できるという条件の場所の確保」は困難を極めた。なぜなら学校周辺は住宅専用の建物であるうえ、家の作りがマニラからの移住者向けに作られた狭い家の連棟造りであった。そのような家の空き家一軒を借りて給食活動を展開していた。給食担当の藤井理事は思い切って校長に実情を訴える手紙を出した。

「あなたの学校の子どもたちのため」と綿々と切実に訴えた。

時間はかかったが快諾するという返事であった。シーランド神父はこの事業をあとさきみさかいなくスタートさせていた。

一度も学校に話をしていなかったそうである。PTA会長の要望事項だから当然学校とは話ができていたものとばかり思っていたのかもしれない。後日談であるが、このPTA会長はとんでもない悪人であることが分かった。アイダ校長も彼女の話になると顔をしかめることが多かった。

アイダ校長は超マンモス学校の運営には頭を痛めることが多くあるとのことであった。

今でも移住者があり、如何にしてその人たちの子弟を収容するか教室不足に困っているときに RASA からの要請はありがたい反面、困らせたようである。

このようなスペース面での背景があったので給食活動が 50 名 2 回の 100 名しかできていないのです。

### (3) 栄養障害児の健康改善状況

単位：人

学 年	健 康 状 態	2019 年 6 月 末	2019 年 10 月 末	2020 年 1 月 末
5 年 生	正 常	0	5 0	5 0
	瘦 せ	2 9	0	0
	激 や せ	2 1	0	0
合 計		5 0	5 0	5 0
6 年 生	正 常	0	4 9	5 0
	瘦 せ	3 3	0	0
	激 や せ	1 7	1	0
合 計		5 0	5 0	5 0

(健康状態は BMI の計算に基づく)

**問題点：**フィリピンの学校は新学期スタートが 6 月、終業は 3 月である。

終業後新学期スタートまでの 4 月、5 月の 2 か月間は日本の春休みに相当し学校は全面閉鎖となる。この間は一切の立ち入りができないために、給食活動も中断せざるを得なくなる。

RASA の給食で命をつないでいる子どもたちに食事を支給することが出来ない。

この 2 か月の給食のブランクで、子供たちの食事内容や栄養摂取状況が悪化して BMI 数値は悪化してしまうので問題である。

### (4) 海外でのボランティア活動

学校建設事業と給食事業に日本の大学生をボランティアとして自費で参加してもらっている。

一人一家庭にホームステイして寝食を共にし、フィリピン家庭、家族、生活様式など異文化を体験する。これらの体験が可能なホスト・ファミリーを学校や地域と一緒に探して学生の一人一人に紹介している。便利な生活環境の日本に比べ、貧しい質素な生活の体験、大家族の生活体験は多感な学生時代の貴重な体験として評価されている。

学校建設ボランティア活動・・・2月初めから約 2 週間建設地周辺

学校給食ボランティア活動・・・8月の日本の夏休み期間約 8 日間

参加大学・・・南山大、椋山女学園大、愛知大、日本大、名古屋女子大、三重短大、日本福祉大  
愛知大

#### ボランティア活動まとめ

ボランティア活動の締めくくりとして、帰国後参加者全員が体験の記録として、

・アンケートによる反省

- ・グループ・ディスカッションによる意見交換会
- ・体験文集の発行（参加者全員に配布）
- ・DVD 作成での写真集作成（参加者全員に配布）

## 2 会議に関する報告事項

### ① 通常総会

#### 開催日時及び場所

令和元年5月18日10時から11時30分まで  
カトリック平針教会ホール

#### 議 題

- 第1号議案 平成30年度事業報告
- 第2号議案 平成30年度決算報告
- 第3号議案 令和元年度事業計画
- 第4号議案 令和元年度予算
- 第5号議案 任期満了に伴う役員の選任

### ② 理事会

#### 開催日時及び場所

令和元年5月18日9時から9時30分まで  
カトリック平針教会会議室

#### 議 題

当法人第10回通常総会開催と提出議題について

### ③ 月例会

#### 開催日時及び場所

毎月第1月曜日午前9時30分から12時までを開催日時として、当法人事務所にて開催

議題は、各理事が担当する職務の進捗状況、課題の提示を行い参加者全員で協議して解決を図ることにしている。

なお本会議メンバーは理事のほか職員にも参加してもらい、広く職務推進上の意見や課題を募って協議し、有効に機能させている。